

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 3 区分
【発行日】令和 1 年 10 月 24 日 (2019.10.24)

【公開番号】特開 2018-89751 (P2018-89751A)
【公開日】平成 30 年 6 月 14 日 (2018.6.14)
【年通号数】公開・登録公報 2018-022
【出願番号】特願 2016-236896 (P2016-236896)
【国際特許分類】

B 2 3 B 31/12 (2006.01)

【F I】

B 2 3 B 31/12 C

【手続補正書】
【提出日】令和 1 年 9 月 13 日 (2019.9.13)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 2 0
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 2 0】

実施例 1 は、回動筒 1 を回動させることにより本体 2 の先端に設けられた孔 2 a に挿入される複数の爪 3 を拡張動させ、この爪 3 により工具 4 を挟持するチャック装置であって、前記本体 2 には環状のラチェット歯 5 が設けられ、前記回動筒 1 の内方にして前記本体 2 には前記爪 3 と螺合し該回動筒 1 と共に回動する環状の回動体 8 が被嵌され、前記ラチェット歯 5 の外方には該ラチェット歯 5 と係止する着脱自在な係止バネ体 9 が配設され、この係止バネ体 9 は前記回動体 8 の回動に伴いラチェット歯 5 の周囲を回動する状態で設けられ、この係止バネ体 9 は前記回動体 8 に凹凸嵌合手段により取り付けられており、また、前記回動筒 1 を前記爪 3 が縮閉する締め方向に回動させる際、前記ラチェット歯 5 と係止していない前記係止バネ体 9 を押圧して前記ラチェット歯 5 と係止させる押圧部 10 が前記回動筒 1 の内面に設けられ、且つ、前記回動筒 1 を前記爪 3 が拡張する緩め方向に回動させる際には前記係止バネ体 9 が前記ラチェット歯 5 と係止しないように構成され、更に、前記回動筒 1 を締め方向に回動させてラチェット歯 5 と係止バネ体 9 とを係止させ前記工具 4 に対する把持力が所定値となった後、締め方向への回動力を零にした際、前記ラチェット歯 5 と前記係止バネ体 9 との係止を強制的に解除させる係止解除機構が設けられているものである。